

地域振興に向けた「道の駅（仮）かりやど」のあり方に関する研究

静岡産業大学 経営学部 小泉研究室

教 員：教授 小泉祐一郎

参加学生：河村陸都、足立敢大、堀口嵐渡、加藤進太郎、
春田杏奈、近藤京佳、伊藤勇輝、吉本真悠、
福田幸大、鷺坂空依、鈴木詩生、新谷和真、
佐藤空悟、堀口嵐渡、中村颯、竹内清乃、
佐藤大哉

1 要約

本研究は、藤枝市仮宿地区に開設が予定されている「道の駅（仮）かりやど」のあり方を検討するため、まず、道の駅の設置が検討されている仮宿地域の立地特性を調査した上で、県内の先進事例として、農産物等の特産品の販売で成功した「道の駅掛川」、温泉施設との併設で成功した「道の駅川根温泉」、お茶体験施設として成功した「道の駅茶銘館」を調査した。また、本格的な体験・レジャー機能を有する道の駅として全国屈指の誘客を実現した群馬県川場村の「道の駅川場田園プラザ」を調査した。さらに、道の駅を拠点とした藤枝市の観光振興を検討するため、自動車で回遊できる藤枝市内の体験型の観光施設「瀬戸谷温泉ゆらく」、「高根の郷」及び「玉露の里」を調査した。

これらの調査を踏まえて検討した結果、道の駅については、立ち寄客だけでなく、何らかの目的を持った来訪客の存在が重要であり、観光の目的地となるための売り＝目玉が必要である、また、市内の観光施設との連携が有効であるとの結論に達した。例えば、スイーツや朝ラーといった藤枝市内で取り組んできた目玉商品を実演販売しながら解説するコーナーを設けることが考えられる。また、近隣にある食品関係の工場の見学と連携して観光商品化することが考えられる。そして、藤枝市内の観光施設の案内機能を道の駅が果たすことで、藤枝市の観光振興に寄与することが期待できる。

2 研究の目的

本研究は、藤枝市仮宿地区に開設が予定されている「道の駅（仮）かりやど」について、藤枝市の地域振興に向けたあり方を研究することを目的としている。

3 研究の内容

本研究では、学生が教員とともに現地調査、ヒアリング、先進事例調査、可能性の検討を行った。まず、道の駅の設置が検討されている仮宿地域の立地特性を調査した。そして、藤枝市の近隣にある成功事例として、農産物等の特産品の販売で成功した「道の駅掛川」、温泉施設との併設で成功した「道の駅川根温泉」、お茶体験施設として成功した「道の駅茶銘館」を調査した。また、本格的な体験・レジャー機能を有する道の駅は、県内及び近隣の都県にはないため全国屈指の誘客を実現した群馬県川場村の「道の駅川場田園プラザ」を現地調査した。さらに、道の駅を拠点とした藤枝市の観光振興を検討するため、自動車で回遊できる藤枝市内の体験型の観光施設「瀬戸谷温泉ゆらく」、「高根の郷」及び「玉露の里」を調査した。これらの調査を踏まえて検討を重ね、提言を取りまとめた。これらの調査の概要は、以下のとおりである。

(1) 道の駅の設置が検討されている仮宿地域の立地特性の調査

①仮宿地区の現地調査

仮宿地区は、藤枝市と静岡市を結ぶ国道一号線の沿線の地域であり、藤枝市中心地から岡部地区を経て宇津ノ谷峠を越え、静岡市に至る途中に位置する。新東名自動車道の開通により、新東名岡部藤枝ICへの連絡道路が整備され、その沿線となっている。道の駅周辺には、食品関連の工場や静岡大学の研究農場もある。

②「道の駅(仮)かりやど」の立地特性

「道の駅(仮)かりやど」は、静岡市の中心地から車で30分程度の位置にあり、静岡市からの日帰り観光客にとって便利な位置にある。また、新東名の岡部・藤枝ICと国道一号バイパスの広幡ICに近接しており、観光バスで移動する観光客のトイレ休憩や昼食休憩の立ち寄りに便利である。

(2) 道の駅掛川の調査

道の駅掛川は、農産物等の特産品の販売で成功している。道の駅の開設に携わり、長年について駅長をしてきた河本前駅長から道の駅の開設とその後の取り組みについて講演いただくとともに、農産物の販売の現場を調査した。道の駅で売るための農産物を周辺の農家に生産してもらうように研修を行うなど、スーパーマーケットとの差別化、農協出荷の品種との差別化に取り組んできたことが成功につながっていることがわかった。



道の駅(仮)かりやどの建設予定地の調査



道の駅掛川の河本前駅長の講演

(3) 道の駅川根温泉の調査

道の駅川根温泉は、温泉施設との併設で成功している。三浦駅長から道の駅の観光客数の動向や取り組みについて講演いただくとともに、温泉施設における観光客の利用状況を現地で調査した。三浦駅長からは、他の観光施設との周遊の状況の説明があり、他の観光施設との連携が重要なことがわかった。また、観光客は単に温泉に入りに来ているのではなく、休憩室でくつろぎ、食事をすることで、リラックスすることを求めていることがわかった。

(4) 道の駅茶銘館の調査

道の駅茶銘館は、和室でのお茶の体験的な試飲で成功している。川根茶の魅力を体験してもらえのように、お茶のインストラクターが解説しながらお茶を飲んでリラックスすることができる。実際にお茶をいただくと、日常的に飲んでいる自宅のお茶とは全く異なる味わいを体験でき、お茶に対する新たな知識を得たことで、立ち寄ったことの意義が認識できるようになっている。観光施設というよりは、休憩施設としての魅力が誘客につながっていることがわかった。



道の駅川根温泉の三浦駅長の講演



道の駅茶銘館でのお茶の体験調査

(5) 道の駅川場田園プラザの調査

全国屈指の誘客を実現した群馬県川場村の「道の駅川場田園プラザ」を現地調査した。道の駅の周辺は森林や農地であり、高速自動車道のICからも少し離れている。駐車場の自動車のナンバーの調査を行い、首都圏からの観光客が多いことを確認した。群馬県特産米の「雪ほたか」のおにぎりが人気で、朝9時には開店前から行列が出来ていた。物産センターでは、特徴のあるスイーツ等の土産や地酒、農産物を販売していた。陶芸体験は1人ずつ30分間であり、料金も高額であるが、内容は濃い体験となっている。夏には無料のブルーベリー狩りができるようになっており、アスレチックなどの遊具もある。

(6) 藤枝市内の体験型の観光施設の調査

①瀬戸谷温泉ゆらくの調査

瀬戸谷温泉ゆらくに入館し、物産の販売状況や温泉施設の状況を調査した。

②スポーツパル高根の郷の調査

射撃の練習や大会に県内外から来訪者がある「スポーツパル高根の郷」の管理者の職員の方からヒアリングを行うとともに射撃体験をした。

③玉露の里の調査

玉露の里の山本店長から施設の概要及び観光客の状況等について講演をいただくとともに、お茶の試飲を体験した。



道の駅川場田園プラザのおにぎり店



玉露の里の調査

4 研究の成果

(1) 当初の計画

本研究では、道の駅の設置が検討されている仮宿地域の立地特性を調査した上で、農産物の販売、温泉施設の併設、お茶の体験施設の併設によって成功している近隣地域の3つの先進事例と全国指の誘客を実現した群馬県川場村の「道の駅川場田園プラザ」を現地調査することで、道の駅のあり方を検討すること、さらに藤枝市内の体験型の観光施設を調査することで、道の駅が藤枝市の観光振興の拠点となるための方策を検討することを計画していた。

(2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

A 本研究は、当初の計画どおりの調査研究を実施することができた。

(3) 実績・成果と課題

本研究では、県内外の先進事例の調査を踏まえて検討した結果、道の駅については、立ち寄客だけでなく、何らかの目的を持った来訪客の存在が重要であり、観光の目的地となるための売り＝目玉が必要であることがわかった。また、市内の観光施設との連携が有効であるとの結論に達した。

(4) 今後の改善点や対策

今後は、道の駅の売りとなる目玉を検討する必要がある。例えば、スイーツや朝ラーといった藤枝市内で取り組んできた目玉商品を実演販売しながら解説するコーナーを設けることが考えられる。また、近隣にある食品関係の工場の見学と連携して観光商品化することが考えられる。

また、道の駅を核とした市内の観光施設との連携を図るための方策を検討する必要がある。例えば、藤枝市内の観光施設の案内機能を道の駅が果たすことで、藤枝市の観光振興に寄与することが期待できる。

5 地域への提言

道の駅が予定されている仮宿地区は、静岡市からも近く、新東名ICや国道一号線バイパスのICに近接していることから、道の駅が開設された場合、藤枝市の観光施設への波及効果が期待できる。このため、全市的な観点から道の駅の活用を図っていく必要がある。

6 地域からの評価

本研究を進める中で、藤枝市内の観光施設の方々からは、若者の視点で体験的な調査研究に取り組んでいることに強い好感を示していただいた。また、観光施設の方からのヒアリングや意見交換をさせていただいたことで、本研究に対して関心を持っていただいた。